


# 第44期第2四半期連結累計期間 決算説明資料

(2009年4月1日 ~ 2009年9月30日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **工ノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 [ir@enomoto.co.jp](mailto:ir@enomoto.co.jp)

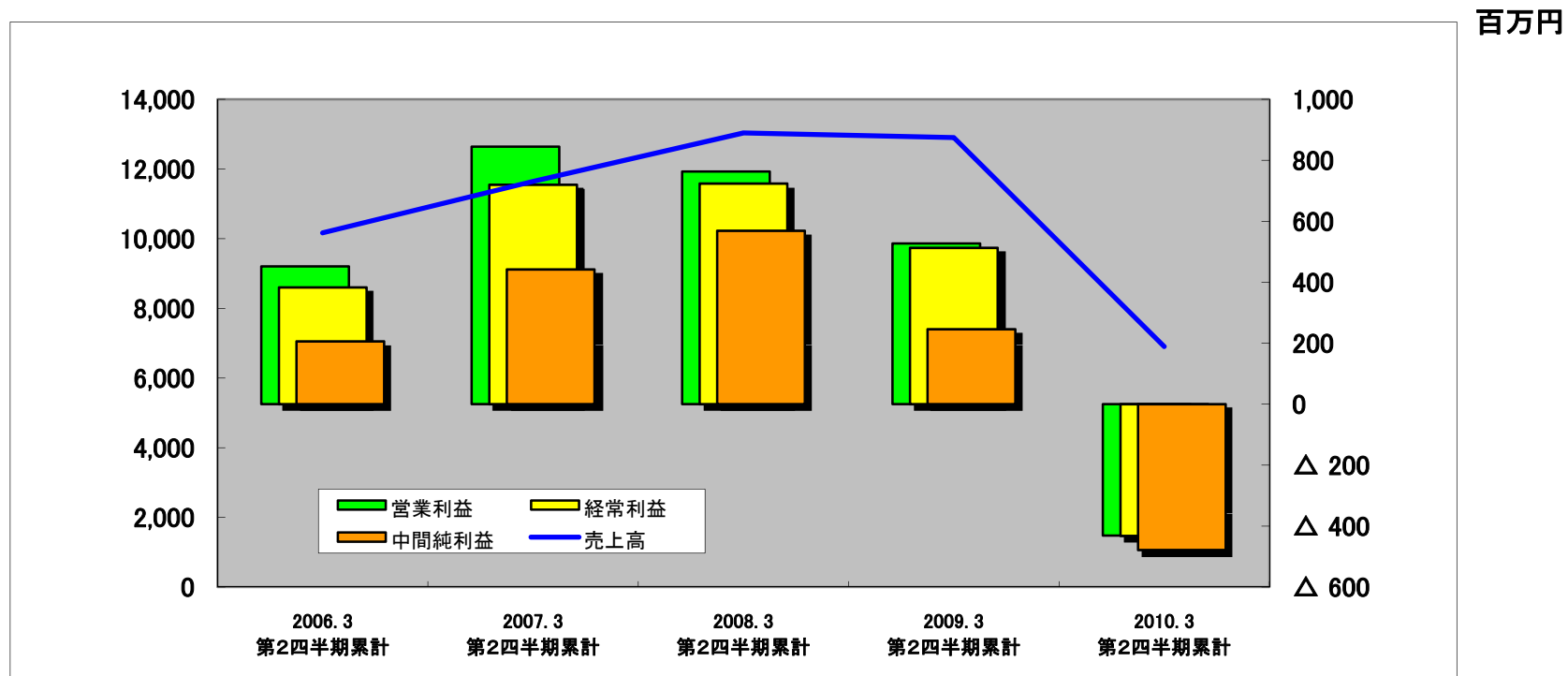
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



第2四半期連結累計  
期間のご報告

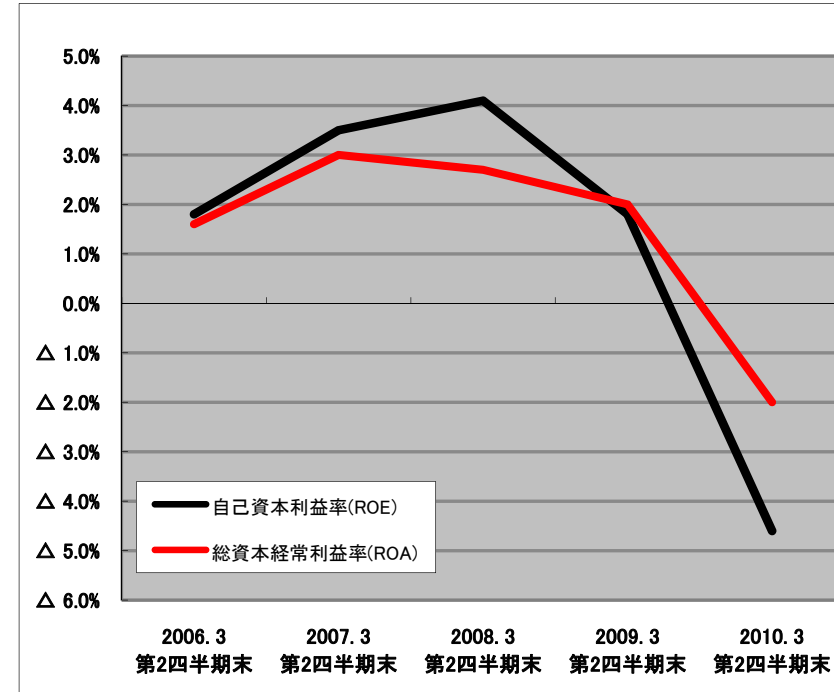
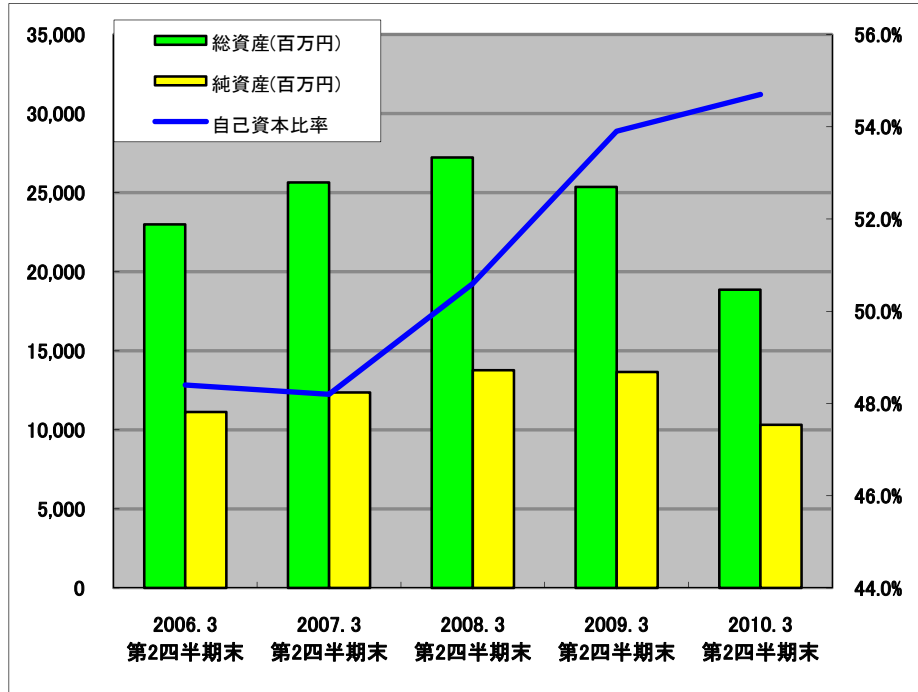
## ■ 連結業績の推移



	2006.3 第2四半期累計	2007.3 第2四半期累計	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計	2010.3 第2四半期累計	前期比
売上高	10,167	11,640	13,036	12,903	6,907	46.5%減
営業利益	452	845	763	527	△ 431	-
営業利益率	4.5%	7.3%	5.9%	4.1%	-6.3%	10.4P減
経常利益	383	720	724	513	△ 432	-
経常利益率	3.8%	6.2%	5.6%	4.0%	-6.3%	10.3P減
中間純利益	206	442	569	246	△ 478	-
中間純利益率	2.0%	3.8%	4.4%	1.9%	-6.9%	8.8P減

# ■ 財政状態

百万円



	2008.3 第2四半期末	2009.3 第2四半期末	2010.3 第2四半期末	2008.3期末	2009.3期末
総資産	27,224	25,364	18,866	26,661	19,029
純資産	13,772	13,660	10,319	13,816	10,488
自己資本比率	50.6%	53.9%	54.7%	51.8%	55.1%
自己資本利益率(ROE)	4.1%	1.8%	-4.6%	8.1%	-18.8%
総資本経常利益率(ROA)	2.7%	2.0%	2.0%	6.0%	-2.7%

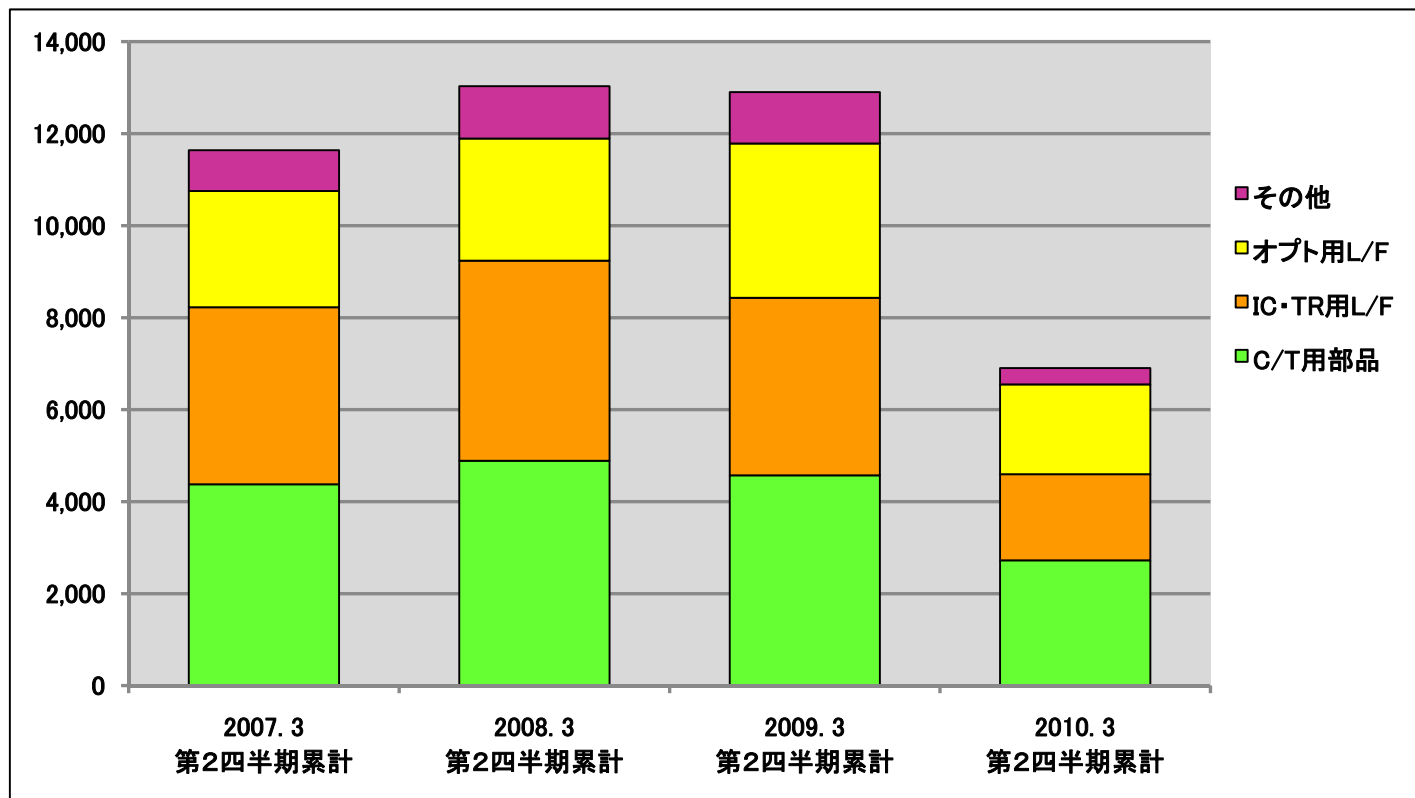
当第2四半期連結累計期間における経営環境は、一部半導体や電子部品の在庫調整の一巡や自動車のエコ減税、家電のエコポイント制度等の内需拡大策を柱とする経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景況感は緩やかに回復の傾向をみせております。また、生産調整も徐々に緩和しつつあるものの、景気回復に向けての力強さはなく雇用・所得環境が悪化していく中で引続き予断を許さない状況が続いております。

当社グループの属する電子部品業界におきましても、中国市場を中心に需要の増加傾向がみられるものの、欧米市場の落ち込みをカバーするまでの成長は遂げておらず、世界的に供給過剰状態が続いております。そのような環境下において価格競争が激化していく傾向が強まってきており、当社の扱う半導体用リードフレームやコネクタ用部品におきましても製品価格の下落傾向が著しく、当社の収益環境を圧迫しております。

世界的な景気低迷の続く状況のもと、当社グループは、環境問題への意識の高まりから、省エネ・地球温暖化防止対策などで期待され、今後大幅な成長が望まれるLED用リードフレームを中心に拡販を図って参りました。また、「高品質」「低価格」という顧客の普遍的ニーズに応えるべく、全社一丸となり品質重視の徹底と生産性の向上、製造原価の低減に邁進して参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は69億7百万円(前年同期比46.5%減)となりました。また、営業損失は4億3千1百万円(前年同期は営業利益5億2千7百万円)、経常損失は4億3千2百万円(前年同期は経常利益5億1千3百万円)、四半期純損失は4億7千8百万円(前年同期は四半期純利益2億4千6百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2007.3 第2四半期累計	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計	2010.3 第2四半期累計	前期比
IC・TR用リードフレーム	3,850	4,350	3,858	1,871	51.5%減
オプト用リードフレーム	2,526	2,655	3,356	1,954	41.8%減
コネクタ用部品	4,379	4,889	4,572	2,725	40.4%減
その他	887	1,140	1,116	355	68.1%減
合計	11,640	13,036	12,903	6,907	46.5%減

### ① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。昨年の秋以降自動車業界が一斉に在庫調整を行ったことにより、車載向けデバイスを中心に急激に需要が落ち込んでおりましたが、自動車のエコカー減税を始めとする経済対策の効果を受け、春以降緩やかながらも回復傾向をみせて参りました。また、民生用機器向け部品に関してもエコポイント制度等の内需拡大策の後押しを受けて第1四半期後半より回復の動きは見られておりますが、依然として受注水準は低調な状況が続いております。その結果、当製品群の売上高は18億7千1百万円(前年同期比51.5%減)となりました。

### ② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用部品及びレーザー用部品が主なものであります。景気低迷により主要メーカーが一斉に在庫調整を進めて参りましたが、当第1四半期よりエコポイント制度を始めとする経済対策の効果や液晶ディスプレイのバックライト用としての採用や、白熱灯や蛍光灯に替わる照明としてLED照明が発売されるなど、エコ商品の代表格としてこれまで以上にLEDの用途が拡大してきており、受注状況は堅調に回復して参りました。その結果、当製品群の売上高は19億5千4百万円(同41.8%減)となりました。

### ③ コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。第1四半期にかけては前期末の行き過ぎた在庫調整の反動を受けて、受注状況は僅かながら回復基調で推移して参りました。しかし、第2四半期以降は欧米市場の景気低迷を受けてスマートフォンに代表される多機能タイプの携帯端末の販売が伸び悩んだこともあり、主力商品であるマイクロピッチ用コネクタの受注が低位での推移となりました。その結果、当製品群の売上高は27億2千5百万円(同40.4%減)となりました。

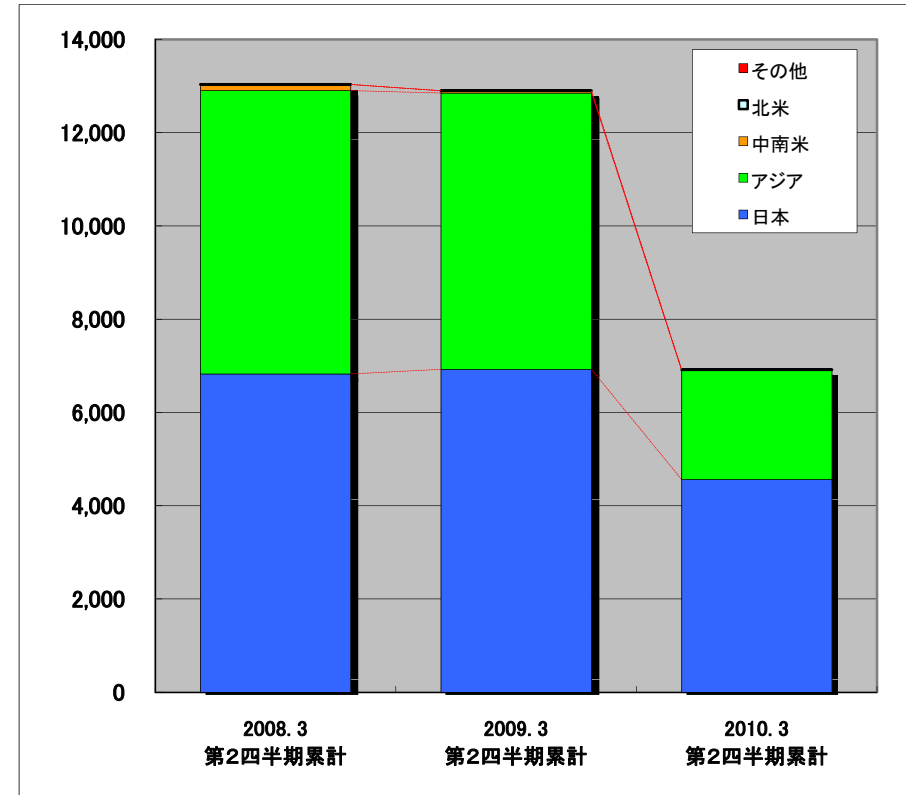
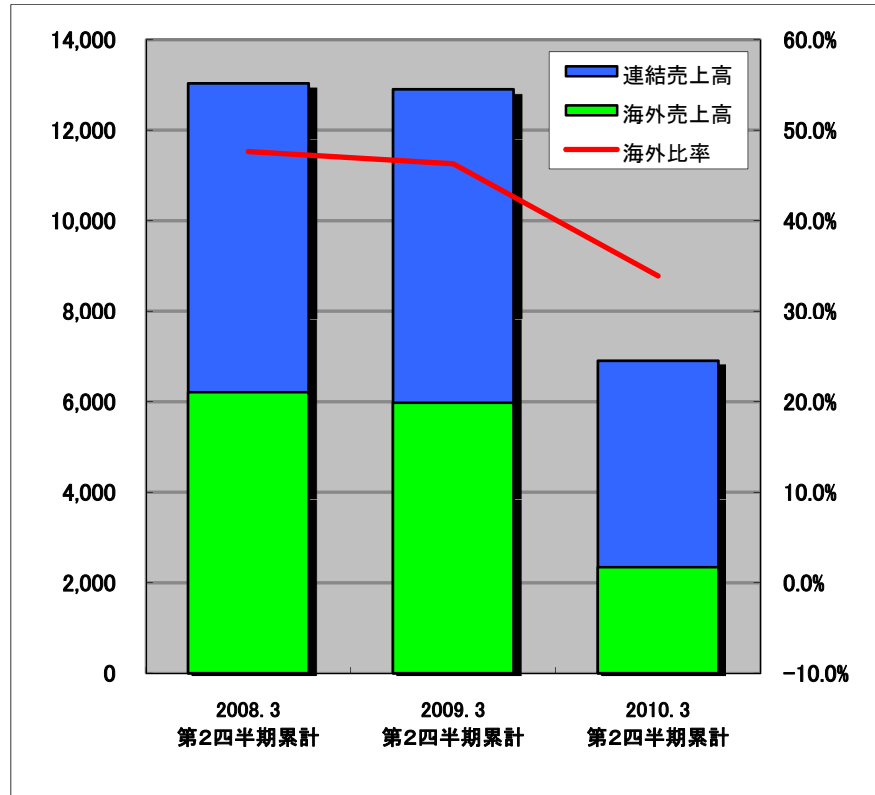
### ④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は3億5千5百万円(同68.1%減)となりました。



## ■地域別売上高

百万円

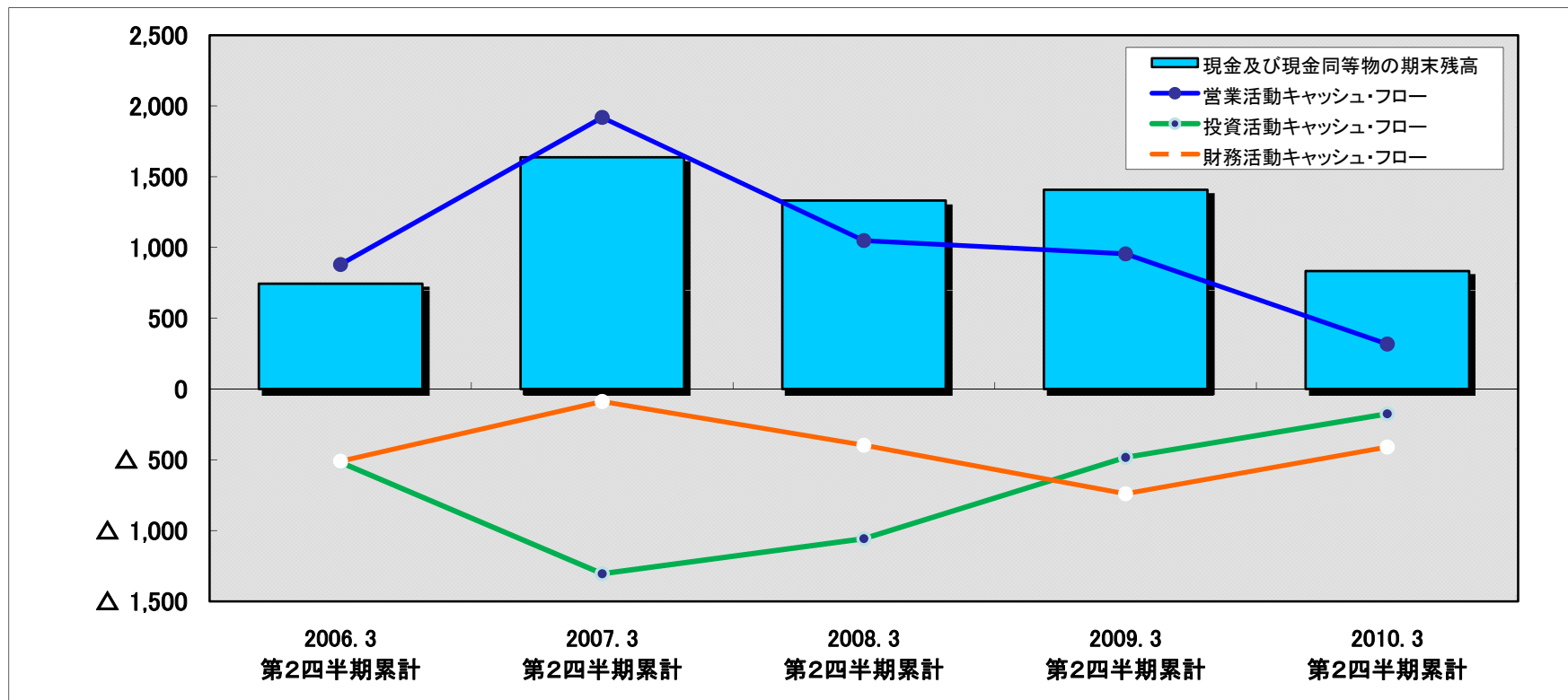


	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計	2010.3 第2四半期累計
連結売上高	13,036	12,903	6,907
海外売上高	6,210	5,977	2,343
海外比率	47.6%	46.3%	33.9%

	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計	2010.3 第2四半期累計
日本	6,828	6,926	4,564
アジア	6,074	5,925	2,339
中南米	131	49	15
北米	1	1	2
その他	2	0	0

# ■ キャッシュ・フロー

百万円



	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	前期比	2008. 3期末	2009. 3期末
営業活動キャッシュ・フロー	1,049	955	318	△637	3,047	△17
投資活動キャッシュ・フロー	△1,057	△483	△175	308	△1,897	△1,050
財務活動キャッシュ・フロー	△397	△740	△410	330	△1,119	595
現金及び現金同等物の期末残高	1,332	1,408	834	-574	1,722	1,093

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ2億5千8百万円減少し、当第2四半期連結累計期間末には8億3千4百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は3億1千8百万円(前年同期比66.7%減)となりました。これは主には税金等調整前四半期純損失4億5千9百万円の計上及び減価償却費6億7千7百万円等による資金の増加によるものであります。

➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

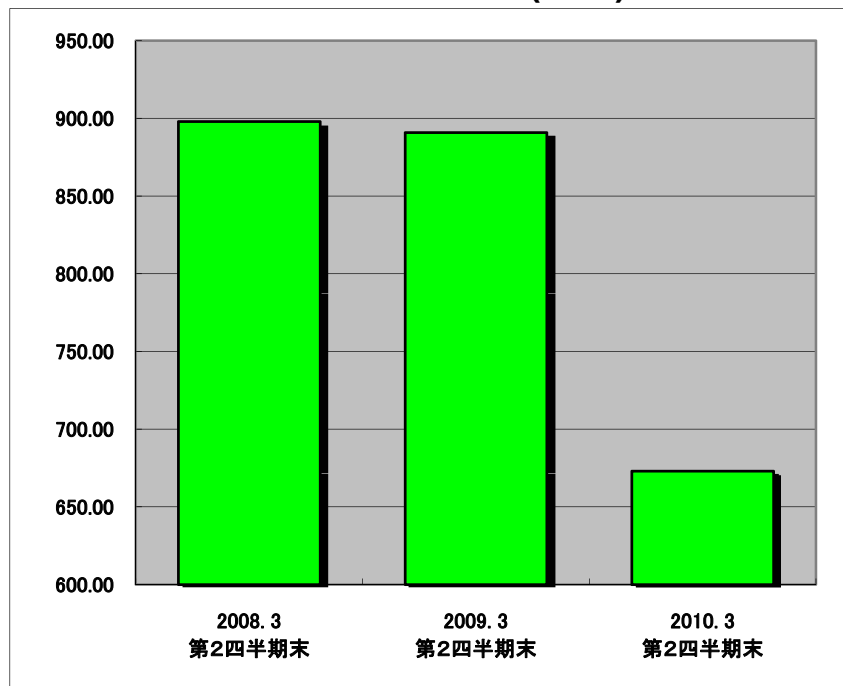
投資活動の結果使用した資金は1億7千5百万円(同63.8%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得2億2千7百万円によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は4億1千万円(同44.6%減)となりました。これは主に長期借入金の減少額3億3千6百万円によるものであります。

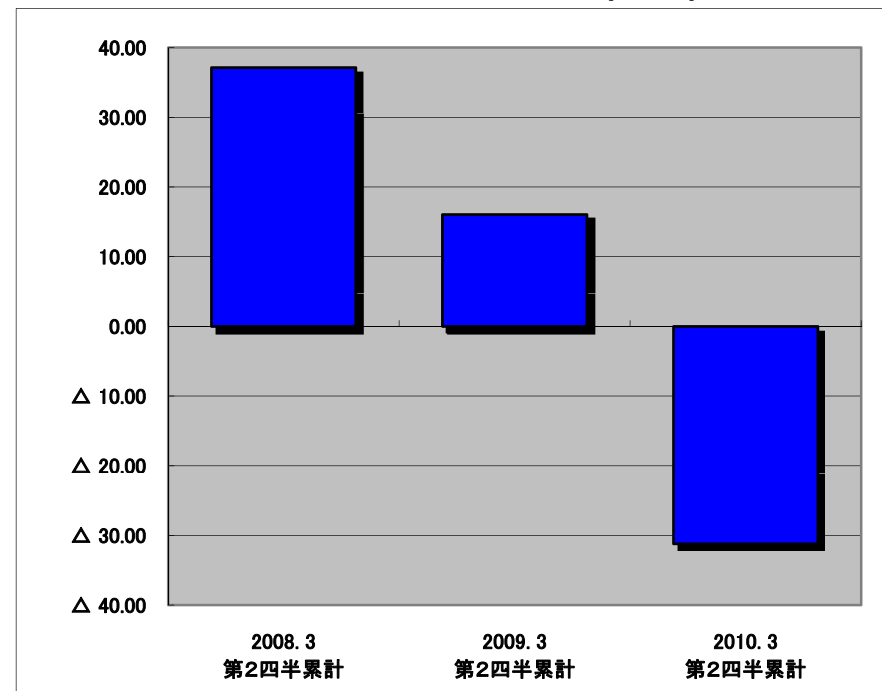
## ■ 1株当り指数

### 1株当り純資産(連結)



### 1株当り当期純利益(連結)

円



	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	2008. 3期末	2009. 3期末
1株当り純資産(連結)	898.03	890.91	673.06	900.98	684.11
1株当り当期純利益(連結)	37.15	16.06	△31.19	70.78	△130.03

## ○配当について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。しかしながら、世界的な景気低迷の続く状況のもと、前期に続き今期につきましても赤字の見通しを立てざるを得ない厳しい状況であります。その為、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、中間配当につきましては見送らせていただきました。

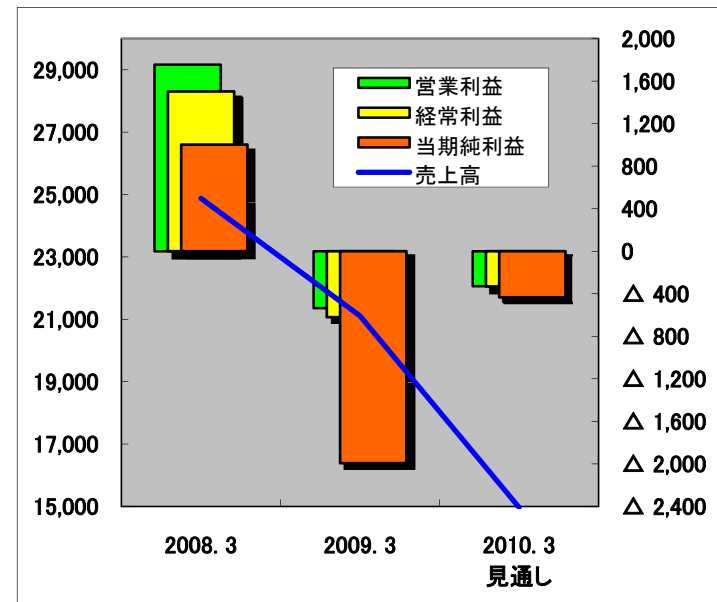
通期の見通し

## ■通期業績予想

### ●連結

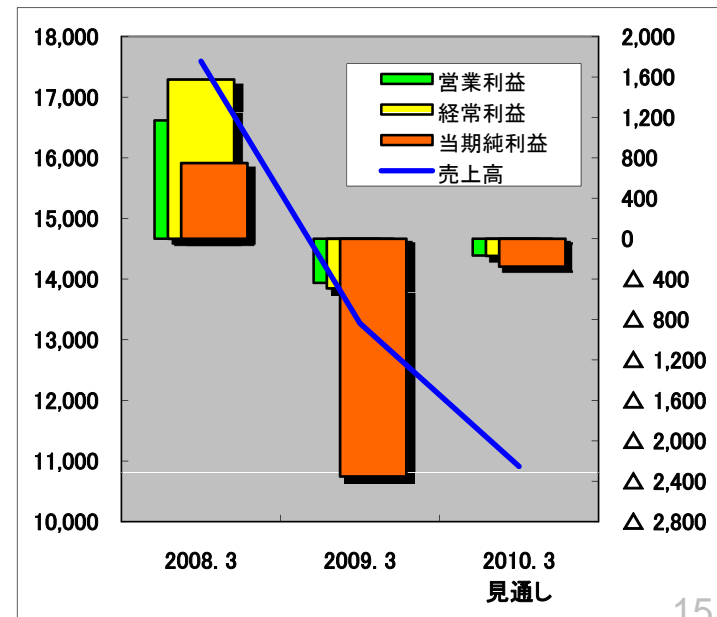
百万円

	2008. 3期末	2009. 3期末	2010. 3期末 見通し	前期比
売上高	27,851	21,109	14,967	29.1%減
営業利益	1,724	△ 535	△ 329	-
営業利益率	6.2%	-	-	-
経常利益	1,577	△ 620	△ 331	-
経常利益率	5.7%	-	-	-
当期純利益	1,085	△ 1,993	△ 433	-
当期純利益率	3.9%	-	-	-



### ●単体

	2008. 3期末	2009. 3期末	2010. 3期末 見通し	前期比
売上高	17,592	13,270	10,911	17.8%減
営業利益	1,171	△ 438	△ 167	-
営業利益率	6.7%	-	-	-
経常利益	1,164	△ 490	△ 170	-
経常利益率	6.6%	-	-	-
当期純利益	750	△ 2,352	△ 275	-
当期純利益率	4.3%	-	-	-



第3四半期以降の見通しにつきましては、中国を始めとする新興国向け需要が堅調に回復過程を辿ると想定されますが、欧米市場の低迷と金融市場の信用収縮による需要の減少が依然として世界市場の低迷に大きく影響していることから、当面は先行きが不透明な状況が継続すると思われれます。

当社の主要販売先である電子部品市場におきましても、欧米市場での景気回復が遅々として進まないこともあり、各部品メーカー間の熾烈なコスト競争が激しさを増していくことから、収益環境が悪化していくと予想され、いままで以上に厳しい状況下での事業運営が求められるものと思われれます。

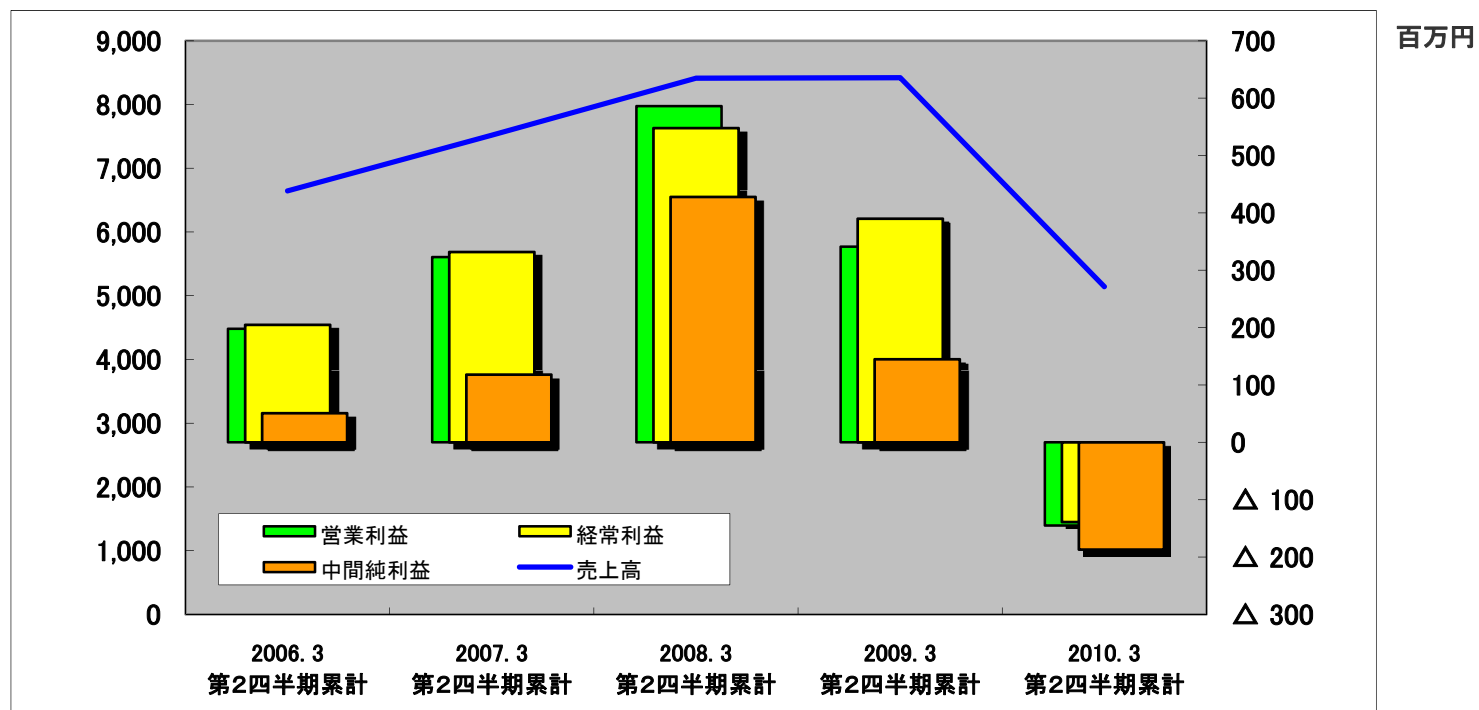
このような環境下、当社グループといたしましては経営資源の効率的な活用、最適地生産の拡大等の諸施策を推進し、業績の回復に努めて参ります。

なお、通期の見通しにつきましては、売上高は149億6千7百万円（前連結会計年度比29.1%減）、営業損失は3億2千9百万円、経常損失は3億3千1百万円、当期純損失は4億3千3百万円を見込んでおります。



補足資料

## ■単体の業績推移



	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	前期比	2008. 3期末	2009. 3期末
売上高	8,412	8,421	5,142	38.9%減	17,592	13,270
営業利益	586	341	△ 145	-	1,171	△ 424
営業利益率	7.0%	4.0%	-	-	6.7%	-
経常利益	548	390	△ 139	-	1,164	△ 476
経常利益率	6.5%	4.6%	-	-	6.6%	-
当期純利益	428	145	△ 187	-	750	△ 2,338
当期純利益率	5.1%	1.7%	-	-	4.3%	-



中期経営方針

経営品質の向上と  
新たな価値の創造

2009年度 経営重点項目

- ・ CSR (企業の社会的責任) 重視
- ・ 次世代製品の取り込み
- ・ 品質重視

現在、当社では上記の経営課題を全社的な取り組みとして推進させる目的で、2009年度の経営重点項目として次の3項目を掲げ、当社グループの全ての部門において具体的な行動計画を立てて積極的に取り組んでおります。

- ① CSR(企業の社会的責任)重視
- ② 次世代製品の取り込み
- ③ 品質重視



### ①CSR重視

責任ある企業市民として、ステークホルダーに対して公平な対応がとれる体制の構築を目指します。また、LEDを始めとする省電力に貢献できる製品の拡販を通じて、環境問題に対しても一企業として、積極的に貢献を果たす所存です。



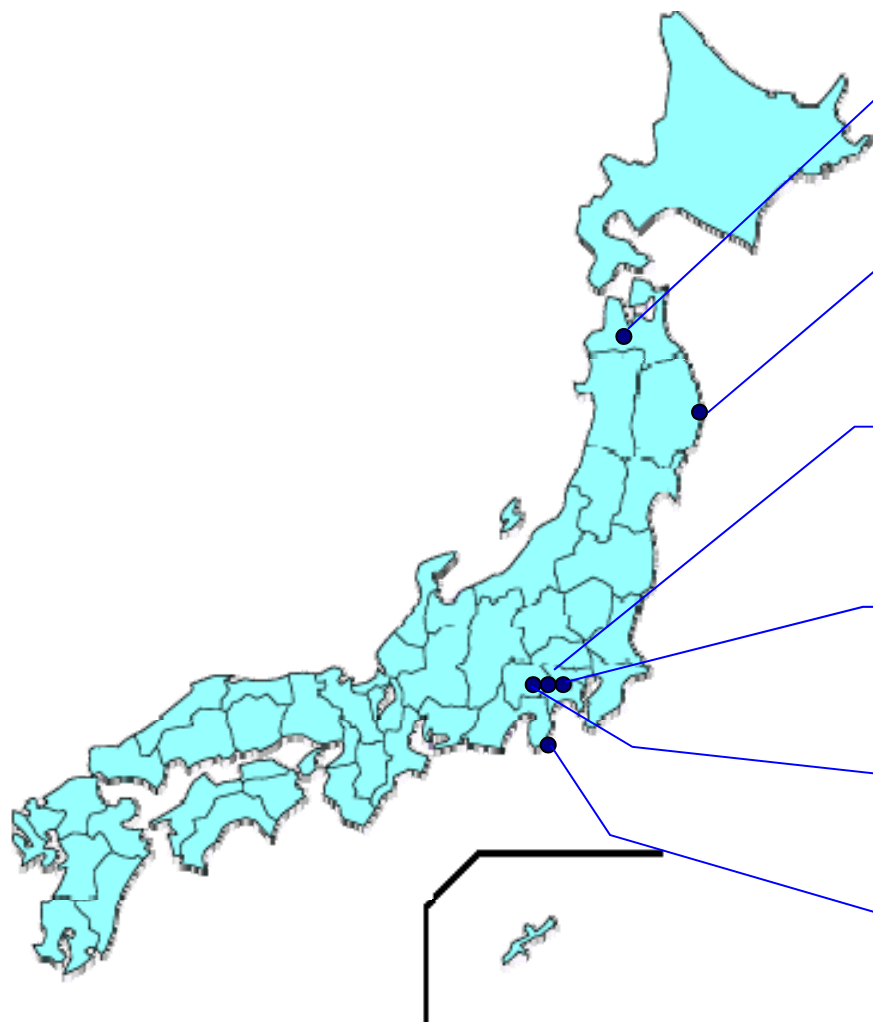
### ②次世代製品の取り込み

当社グループの成長の推進力となりうる、樹脂成形やメッキ工程を含む一貫生産を含む次世代製品の取り込みを積極的に行い、限りある経営資源を集中的に投入して、収益の拡大を図る所存です。4月より新たに技術開発本部を設置して、顧客ニーズに沿った高付加価値の次世代製品の開発を加速してまいります。

### ③品質重視

顧客から高い評価と信頼を勝ち取るとともに、長期にわたるパートナーシップを築く為、品質保証体制の強化、とより高いレベルでの品質管理の徹底を図ります。また、4月より新たに品質保証部を社長直轄組織として設置し、品質の向上に向けて強かにリーダーシップをとる体制を整え、顧客の期待に応える品質を作り上げる所存でございます。





・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1  
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39  
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社/上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19  
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・藤野工場

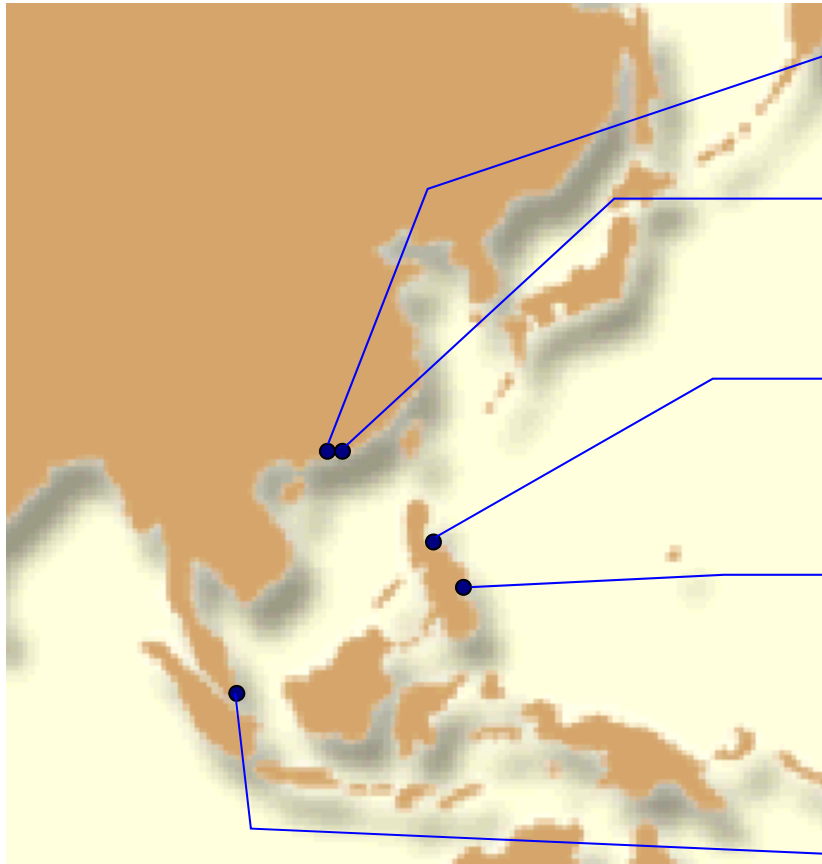
神奈川県相模原市藤野町佐野川2350  
TEL.0426-87-5111 FAX.0426-87-4878

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666  
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159

・下田工場

静岡県下田市加増野字大古隅12-1  
TEL.0558-28-1550 FAX.0558-28-1552



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**  
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区  
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**  
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室  
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**  
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.  
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**  
**CEBU OPERATIONS**  
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,  
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015  
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

▪ **ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**  
30Loyang Drive,Singapore 508945  
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.